



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



第6回昭和大学学祖祭が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

去る5月29日(日)午後1時から、上條講堂で平成28年度学校法人昭和大学学祖祭が、盛大に開催されました。学祖祭は本学の学祖である上條秀介先生のご遺徳を称え偲ぶとともに、本学関係者が一同に会して親睦の絆をより深めるために平成23年度から開催され、今年度で6回目になります。

学祖祭に先立ち、法人役員と上條家関係者が午前中に都立多摩霊園の上條家墓をお参りし、小口理事長が学校法人の平成27年度の事業報告ならびに28年度の事業計画を学祖に墓前報告しました。

上條講堂で開催された学祖祭には、4学部学生及び看護専門学校生84名を含めて総勢475名の出席がありました。式典では小出学長から、昭和大学教育職員に対する最高の顕彰である上條奨学賞の授与が行われました。歯学部からは、口腔病理学部門の安原理佳助教(研究業績)と口腔リハビリテーション医学部門の高橋浩二教授(教育功績)が表彰されました。また、昨年度からの昭和大学学術研究奨励研究者の表彰に加えて、各学年の最成績優秀者に対する昭和大学学業成績優秀賞の授与も行われました。

小口勝司理事長から事業報告及び法人の中長期事業計画が紹介され、細山田明義名誉学長から大学の歴史に関する熱のこもった記念講演がありました。参加者一同、本学の歴史と伝統を再認識し、今後の益々の発展を確信することができました。



平成28年度父兄会総会が開催されました

教育委員長 美島 健二

平成28年度父兄会総会が、6月11日(土)午後1時から本学上條講堂にて開催されました。総会では平成28年度の学校法人の事業



報告と事業計画の概要が説明され、決算、予算の承認等が行われました。また、同日の総会に先立ちD6父兄説明会が午前11時30分より4号館5階500号室にて開催され、最初に宮崎学部長より歯学部教育の概要についてお話しがあり、次いで上條学生部長より学生生活における注意点などについて説明がなされました。その後、卒業判定について美島教育委員長、昨年度の歯科医師国家試験結果について高橋D6チューター委員長より説明がありました。加えて、歯科病院の研修プログラムについて長谷川教授より説明がなされ、最後に卒後研修制度について佐藤教授のナレーション付きスライドの上映後、上條学生部長より補足説明がなされました。

総会終了後は各学部に分かれ部会が開催され、多数のご父兄の方々に御出席頂くことが出来ました。歯学部会では、宮崎学部長から歯学部教育の現状について説明がなされました。次いで、上條学生部長からは学生生活についての報告がなされました。また、美島教育委員長からは進級判定についての説明がなされました。その後、7号館の50年記念館に会場を移して4学部合同の懇親会が開催され、こちらにも多数のご父兄の御参加があり、教員との和やかな交流が行われました。



上條奨学賞(教育功績)を受賞して

口腔リハビリテーション医学部門 高橋 浩二

教育功績による上條奨学賞という昭和大学の教員として最も名誉な素晴らしい賞を授けて頂き、本当に有難うございました。私は、本学歯学部第1回生として入学後は学生代表の教育委員として教育委員会において、学生間でまとめ上げた意見を錚々たる教授の先生方に主張し、創生期の本学歯学部カリキュラム作りに極僅かではありますが、参加することができました。卒業後、入局した顎顔面外科学教室では大学院生として歯学部教育推進室片岡教授をはじめとして後輩の研究指導を行いました。また大学院卒業2年後には顎顔面外科学教室の医局長を拝命し、基礎実習書の大幅改訂など教育に力を注ぎました。



例えば当時は相入れなかった顎関節症の補綴的アプローチと口腔外科的アプローチについては、当時、冠橋義歯学教室にいらした古屋良一名誉教授のアプローチ法を口腔外科の実習書に取り入れ、学生が共通の知識を学べるように配慮しました。

現在、口腔機能障害を担当する当部門を担当させて頂き、超高齢社会を突き進む日本において急増する摂食嚥下障害をはじめ、口腔機能障害の知識と診療技術を未曾有の超高齢社会で将来活躍する学生、後輩に伝えるべく最大限の努力を払っております。

さらに第6学年の学年主任ならびにチューター委員長として障害者歯科船津先生の最大限のお力添えを頂きながら、国試成績のさらなる向上を目指しております。チューター委員・教員の皆様どうぞお力添えを！！

上條奨学賞(研究業績)を受賞して

口腔病理学部門 安原 理佳

このたび平成28年度学祖祭にて上條奨学賞・研究業績部門を賜りました。本賞は本学創設者の上條秀介先生ゆかりの栄誉ある賞ときき、医療に携わる研究者として大きな喜びを感じると同時に身の引き締まる思いです。部門主任の美島健二教授、大学院生として研究



を始めた口腔生化学講座の上條竜太郎教授、宮本洋一准教授、歯科薬理学講座の高見正道教授、これまで研究生活をともに過ごした各講座の教室員のみ

なさまに心より御礼申し上げます。

思い返せば、研究生活への憧れと希望を抱いたのは、学部学生であった頃の本学名誉教授の須田立雄先生の熱意ある講義からでした。歯学部出身者だからこそのいいんだという言葉が強く記憶に残り、今まで迷うことなく研究に身を投じることができました。受賞のきっかけとなった「骨転移性乳癌の発症メカニズムの解明」では、これまでの硬組織研究をベースに癌研究をはじめた最初の研究でした。乳癌罹患患者は近年増加の一途をたどり病相も様々です。専門家との知識の共有がより良い成果に結びつくように感じます。

歯学部だからこその視点とガッツで今後も鋭意努力していきたいと思っております。

学術研究奨励賞を受賞して

美容歯科学部門 稲垣 里奈

近年、Minimal Interventionの概念が一般的になり、再石灰化が可能な象牙質を保存する事が求められています。齶蝕検知液の染色性は動粘度で調整されており、齶蝕象牙質の染色性に非常に影響を及ぼします。再石灰化不可能な感染象牙質のみを選択的に染色できる動粘度の範囲はまだ特定されていません。また齶蝕検知液は水分によって、より染色性が変化してしまうことが分かっています。



本研究では、歯質の硬さの結果などを総合的に解析し性能発揮される動粘度の範囲の特定を行っています。さらなる齶蝕検知液の発展開発のために今後さらに細菌学的な染色などを行い、多方面からの齶蝕検知液の精度の向上を目指した基礎的な研究を行っていくべく邁進していきます。そして新たな齶蝕検知液の開発のデータとして役立てたいと思っております。

このたびは学術研究奨励賞にご選出いただき誠にありがとうございました。

学術研究奨励賞を受賞して

歯周病学講座 氷室 沙羅

このたび、学術研究奨励賞を頂きました。私は、大学院時代から接合上皮の研究に取り組んでいます。接合上皮とは、一言で言えば、エナメル質に直接接する上皮です。炎症によって、この接着が壊れることから歯周炎に移行します。つまり、我々が研究している接合上皮は、歯周病の機序を語る上で欠かせない組織です。我々は、過去に、接合上皮のみを蛍光発色させる技術を用い、接合上皮が歯原性上皮であることを突き止めました。今回頂きました研究費は、こ

の手法を応用し、正常な接合上皮が歯周病に罹患するにあたり、どのように変化して行くのか解析することに活用したいと考えております。

このような受賞の機会を頂きましたことは、山本 松男教授を筆頭に歯周病学講座の皆様、研究の具体的な技術指導を頂きました美島 健二教授を始めとする口腔病理学部門の先生方、その他、支えて下さった全ての方の深いご厚情の賜物であると存じます。これからも臨床・研究・教育に励みながら、微力ではございますが、歯周病学の発展に尽くしてまいりたいと存じます。今後とも、皆様方の尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申しあげます。



IT連携授業説明会を行いました

歯学教育学部門 片岡竜太

文科省大学間連携共同教育事業である「ITを活用した超高齢社会に対応できる歯科医師の養成」も最終年度を迎えました。ITを活用した授業（D3口腔医学とチーム医療Ⅰ、D4口腔医学とチーム医療Ⅱ）を受けた3大学学生の意見をまとめると、「社会のニーズを意識して歯科医療を学ぶ事ができた」「安心安全な歯科医療の実践とチーム医療の重要性がよくわかった」「全身疾患の理解する必要性を実感した」「ITを活用すると予習、復習を行いやすく、また授業中に課題に取り組みやすい」など、肯定的な意見が多く聞かれましたが、同時に「正答の許容範囲を広くして欲しい」「IT教材を活用した授業の実施方法が教員によって異なるため統一して欲しい」など改善の要求も寄せられました。

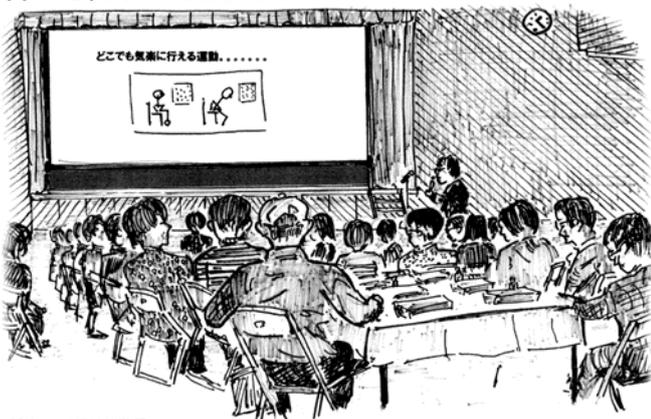
これらの学生の要望に応えるために、授業を担当する教員13名を対象に「IT教材を活用した授業運用」と「e-ラーニング教材の作成・修正方法」について、5月6日（金）と10日（火）にPCで教材修正や授業中の正答率の集計など行う演習形式で説明会を実施しました。今後も継続される本授業により学生が超高齢者社会で活躍する歯科医師に成長することを期待します。



昭和大学白菊の集いが開催されました

口腔解剖学講座 中島 功

平成28年6月18日（土）12時30分より、昭和大学50周年記念館にて平成28年度昭和大学白菊の集いが開催されました。幸い天気にも恵まれ会員さんと同伴者合わせて歯学部72名、医学部129名の計201名が参加者されました。この「集い」は医学部と歯学部が交互に担当をしており、今年は医学部の担当で医学部の学生さんが会員さんの駅から会場までの道案内や会場内での案内といった御世話に活躍していました。「集い」は、医学部の森山准教授の司会で行われ、医学部肉眼解剖学部門の大塚成人教授の開会の辞に続いて物故会員への黙禱が行われました。さらに小出良平学長、久光 正医学部長、上條竜太郎歯学部学生部長の挨拶が行われた後、医学部リハビリテーション医学講座の川手信行教授による「若さを保ち健康な体づくり」というテーマで、講演が行われ、質疑応答ののち講演は14時に終了し、歯学部口腔解剖学講座中村雅典教授の閉会の辞を持って終了いたしました。



挿絵：口腔解剖学/佐野

受賞

広報委員長 中村 雅典

・日本デジタル歯科学会第7回学術大会

優秀ポスター発表賞

「光学印象を用いたスクリュー
固定インプラント上部構造
連結精度の予備的検証」
三好敬太（歯科補綴）



「CAD/CAM 冠用ブロック材料の
熱疲労試験による強度変化
に関する研究」
堀田康弘（歯科理工）



D2, D3研究入門の優秀者が表彰されました

教育委員長 美島 健二

本年度の「研究入門」を履修した学生は、歯学部2年生(D2)7名(現3年生)、歯学部3年生(D3)9名(現4年生)でした。この中からD2は4名、D3は5名がそれぞれ優秀者として6月15日の教授会で表彰されました。本選択科目は、学生が約2週間、基礎系の研究室で各自設定した目標に向かって研究を行うものです。履修者は実習後に報告書を提出し、その内容を基礎系の各講座・部門の教育職員が評価しました。その結果、D2は1位が家泉裕香さん、2位が西田訓子さん、3位が竹中真弓子さん、4位が大塩 葵さんとなりました。また、D3は1位が三橋あい子さん、2位が大竹 開さん、3位が白倉佳奈さん、4位が同率で稲本香織さんと下野史菜子さんとなりました。選ばれた学生達は、宮崎歯学部長より表彰状を授与されました。本実習が将来、歯科臨床におけるEvidence-Based Medicine の実践に役立つものと期待しています。



認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

日本歯科麻酔学会 専門医:

- 西村 晶子 (歯科麻酔科学部門 助教)
- 安藤 茜 (横浜市北部病院 麻酔科 助教)
- 本橋 研 (歯科麻酔科学部門 普通研究生)

行事予定

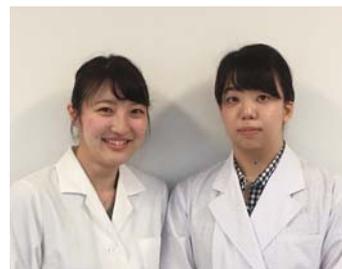
広報委員長 中村 雅典

- 7月8日(金): 夏季スポーツ大会壮行会
- 7月24日(日): 歯学部オープンキャンパス
- 8月1~12日: 第48回全日本歯科学学生総合
(月~金) 体育大会夏期部門
- 8月5日, 6日: 昭和大学教育者のための
(金, 土) ワークショップ(アドバンスコース)
- 8月7~9日: 昭和大学教育者のための
(日~火) ワークショップ(ビギナーズコース)
- 8月13日(土): 歯学部オープンキャンパス
- 8月20日(土): 大学院歯学研究科秋季入試
- 8月27日(土): 富士吉田オープンキャンパス

北海道大学で選択実習をおこないました

D6 茂木 柚実香

私が選択実習先として学外を選んだのは、以前から高齢者歯科の診療に興味があったことと、北海道大学が昭和大学同様、他の医療系学部のある大学であり、昭和大学以外でのチーム医療の様子を見学できると考えたためです。今回お世話になった北海道大学の高齢者歯科は、有病者の全身管理をしながらの補綴処置はもちろん、口腔内科、口腔外科、高齢者の歯科心身症、口腔ケア、接触嚙下リハビリテーションなどあらゆる分野が統合されているため、さまざまな症例を見学することができました。外来では主に、一般的な補綴治療のアシストや顎義歯の製作、インプラントのメンテナンス、舌痛症や口腔カンジダ症、非菌原性疼痛などたくさんの患者さんの経過、がん患者の周術期の診察などを見学させていただきました。また、病棟患者の口腔ケアやVF、病棟カンファにもたちあわせていただくことができました。病棟カンファでは、医・歯・薬・看・作業・理学・栄養士の先生方が一人ひとりの患者さんについて自分たちの視点から情報を提供し、その情報を共有しながら診療プランをたてており、医療従事者間で壁のない質の高い医療を提供されているのだなと感じました。



また、北大の学生の授業や実習にも参加させていただき、授業に向き合う態度や医療に対する意識が非常に高く、私も国家試験の勉強やその後の研修に対するモチベーションが高まり、より一層気を引き締めて頑張りたいと思いました。

今回、学外に行って改めて母校の良さを感じたところもたくさんあり、本当に実りある2週間でした。選択実習をするにあたり、このような機会を与えてくださった先生方に深くお礼申し上げます。



編集後記

歯科理工学部門 堀田 康弘

イギリスのEU離脱が決まり世界経済の先行きは不透明ですが、教育・研究の透明性は常に維持していきたいですね。末筆ながら、ご多忙の折ご寄稿下さいました方々には、この場を借りて感謝申し上げます。